

**第33回日本医療薬学会年会**  
**日本薬科機器協会 ワークショッププログラム**

会場：仙台国際センター(展示棟)ワークショップ会場

YWS-O=ワークショップ番号

開催日	開催時間	発表タイトルと内容	会社名	
11月3日 (金・祝)	13:00~ 13:30	<b>YWS-1 閉鎖式薬剤移注システム(CSTD)「ケムフォート™」のご紹介</b>  日本国内で販売開始となるCSTD「ケムフォート™」は、独自のエアクリーニングシステムにより薬剤が漏出することなく、シンプル操作で抗がん剤の調整、投与が可能な製品です。本ワークショップでは、製品特長と操作方法を中心にご紹介をさせていただきます。製品をたくさんご用意しておりますので、実際にお手にとって操作を体験していただくことができます。この機会にぜひお気軽にご参加ください。	東レ・メディカル(株)	
	14:00~ 16:00	<b>YWS-2 実際に測定してみましよう！薬物血中濃度測定とその活用について</b>  薬物血中濃度測定において必要なタイミングに迅速に測定できることは、薬物治療の最適化につながると期待されています。本セミナーでは、HPLC法による薬物濃度測定 of “検体前処理から測定まで” を、一例としてポリコナゾール(疑似検体)で体験していただくことができます。この機会にぜひご参加ください。		(株)日立ハイテック/ (株)日立ハイテックサイエンス
11月4日 (土)	10:00~ 12:00	<b>YWS-3 無菌調製支援システムによる調製監査～調製過誤回避へ向けて！</b>  抗がん剤調製にてロボット化が進んでいますが、対応不可な調製レシピも多数存在します。その観点から模擬薬を用意致しましたので、システムによる実習体験や名古屋大学病院薬剤師様との意見交換も行って下さい。 【調製レシピ(模擬薬)】 ・抗がん剤用(アブラキサン、髄注) ・新生児で用いる微量な無菌調製用(ヘパリン)	三田理化工業(株)	
	13:30~ 15:30	<b>YWS-4 B型肝炎再活性化の予兆を薬剤群毎に捕捉する</b>  近年のトピックのひとつにHBVの再活性化がある。HBV再活性化は一旦生じれば劇症化リスクが高く、化学療法や免疫抑制療法などにおけるモニタリングの継続が大切だ。本ワークショップではHBV再活性化について医師の最新知見の提供とともに、有リスク者を効率的に抽出するワーク、東北大学病院薬剤部の事例を共有したい。		(株)湯山製作所
	16:00~ 18:00	<b>YWS-5 実際に測定してみましよう！薬物血中濃度測定とその活用について</b>  薬物血中濃度測定において必要なタイミングに迅速に測定できることは、薬物治療の最適化につながると期待されています。本セミナーでは、HPLC法による薬物濃度測定 of “検体前処理から測定まで” を、一例としてポリコナゾール(疑似検体)で体験していただくことができます。この機会にぜひご参加ください。		(株)日立ハイテック/ (株)日立ハイテックサイエンス
11月5日 (日)	10:00~ 12:00	<b>YWS-6 実際に測定してみましよう！薬物血中濃度測定とその活用について</b>  薬物血中濃度測定において必要なタイミングに迅速に測定できることは、薬物治療の最適化につながると期待されています。本セミナーでは、HPLC法による薬物濃度測定 of “検体前処理から測定まで” を、一例としてポリコナゾール(疑似検体)で体験していただくことができます。この機会にぜひご参加ください。	(株)日立ハイテック/ (株)日立ハイテックサイエンス	